長編アニメーション映画

ぞう列車がやってきた

バリアフリー対応作品
副音声・字幕スーパー付

やさしい象さんがくれた
愛と平和の贈りもの。

ぞうの命を守った人々の
あたたかい心が伝わる
感動の実話物語。

監督・脚本 加藤 盟
原作 小出隆司(岩崎書店刊)

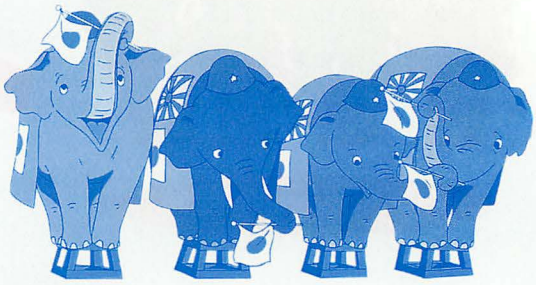
キャラクターデザイン・作画監督 北崎正浩
美術監督 小林七郎 / 撮影監督 藤田正明
音響監督 明田川進 / 音楽 小六　次郎
アニメーション監督 吉田健次郎 / 製作協力 T&Kテレフィルム
アニメーション製作 虫プロダクション
製作 映画「ぞう列車がやってきた」製作委員会

カラー・スタンダード・80分

文部省選定

ぞう列車がやってきた

バリアフリー対応作品
副音声・字幕スーパー付



ぞうの命を守った人々の あたたかい心が伝わる感動の実話物語。

ものがたり

ポッポちゃん（5才）のお父さんは、名古屋の東山動物園の園長さんです。ポッポちゃんは、毎日サブちゃん（5年生）といっしょに動物園の中をぐるっと回ります。動物園の動物は、みんなポッポちゃんとサブちゃんの友だちです。
その頃、日本は、アメリカ・イギリスなど世界中の国を相手に戦争をしていました。でも、動物園にはまだたくさんの動物がいました。その中でも一番の人気者は象です。象の柵のまわりはいつも人でいっぱいです。
東山動物園にも4頭の象がいました。戦争が始まって運ぶことが出来なくなったので、木下サーカスから譲り受けたのです。マカニー、エルド、キーコ、アドン。4頭は曲芸をしていました。
戦争はだんだんと激しくなり、動物園でもエサ不足が深刻になりました。象が毎日食べるワラも、燃料になってしまい集めるのが一苦労です。
でも、それ以上の難問が動物園ではおきていました。全国の動物園に、猛獣を処分せよという命令が出されていたのです。そして、処分する猛獣の中には、象も含まれていました。上野動物園では、花子、ジョンが殺されました。
猛獣を処分せよという再三の命令を断わり続けてきた東山動物園でも、ついに…。

長編アニメーション映画
カラー・スタンダード・80分

監督・脚本 加藤 盟 / 原作 小出隆司（岩崎書店刊）/キャラクターデザイン・作画監督 北崎正浩
美術監督 小林七郎 / 撮影監督 藤田正明 / 音響監督 明田川進 / 音楽 小六禮次郎
アニメーション監督 吉田健次郎 / 製作協力 T&Kテレフィルム / アニメーション製作 虫プロダクション
製作 映画「ぞう列車がやってきた」製作委員会

かいせつ

◆戦争中、たくさんの動物が殺されました。20頭いた象も殺され、残ったのは名古屋の東山動物園にいる2頭だけでした。戦後、2頭の象マカニーとエルドに会いたいという子どもたちの熱い願いが大人たちを動かし、東京をはじめ全国から「ぞう列車」に乗って子どもたちが東山動物園にやって来ました。この映画は実話にもとづいて製作されました。

◆動物園には、たくさんの動物がいます。あたりまえのようですが、そうでない時代がありました。あの太平洋戦争の時代です。人間の勝手な都合で、多くの動物が殺されました。動物園にたくさんの動物がいることは、平和である証です。動物園のシンボルは今もむかしも象です。

◆長編アニメーション「ぞう列車がやってきた」は、戦争から象を守りぬいた人々の優しさと勇気を子どもたちの視点から描くとともに、夢も希望もなくした戦後、「象を観たい」「象に会いたい」という東京の子どもたちが、「平和」の象徴として「ぞう列車」を走らせるまでを描きます。

◆原作「ぞうれっしゃがやってきた」は、小学校教師の小出隆司氏が1976年に自費出版。生きていた象の話は、子どもたちに大きな感動を呼び、1983年岩崎書店より刊行されました。

◆監督、脚本は「わんぱくパック」（1976年）、「東京からきた女の子」（1978年）、「オバケちゃん」（1987年）などで、軽快なタッチの中に子どもたちの暖かい心を描いてみせた加藤盟。また、音楽は1990年日本アカデミー賞優秀音楽賞に輝いた小六禮次郎が担当します。

㈱オプチカル 販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101